

讃岐香川の様々な文化発展を応援します。

# 文化通心

B U N K A T S U S H I N

2023秋 No.119



## 白ゆり服装学院の歴史

白ゆり服装学院は、昭和から平成にかけて約60年の歴史の中で、多くの素敵な洋服の専門家を  
生み出した。同校は平成24年に閉校したが、讃岐の女性史のひとつとして、忘れてはいけない。  
村川永子先生と山岡久美子先生の二人三脚で紡いできた歴史をぜひご覧いただきたい。

(6ページに関連記事)

- 茶室 de 若人茶会
- 第9回 あ・うんの数寄講座  
茶の湯をさらに楽しむ夏期講習
- 村川昭和史服装専門博物館
- 9月から11月までの茶華道情報

発行：公益財団法人 中條文化振興財団  
〒760-0017 高松市番町2丁目1番12号  
TEL(087)826-3355 FAX(087)826-2212  
2023年秋号 No.119 9月1日発行(季刊)

# 茶室 de 若人茶会



今年度から始まった弊財団の若人茶会のプログラム。第二弾として、香川県立高松商業高校の茶道部の皆さんにお茶会を開催していただきました。財団では、高校生をはじめとする学生の茶道部等に、本格的な茶室を提供して、対外的なお茶会やお稽古などにご利用いただき、活動を応援したいと考えております。ご希望の皆様は、ご相談下されば出来るだけのサポートをさせていただきますので、事務局までお気軽にご連絡下さい。

高松商業高等学校 茶道部

部長 池田理那（高校3年）

私たち高松商業高等学校茶道部は、1年生3名、2年生3名、3年生4名の計10名で活動しています。ここ数年、新型コロナウイルス感染症の影響でお茶会やお稽古ができない時期が続いていましたが、今回5月28日、中條文化振興財団にて若人茶会を持たせていただき大変感謝しています。

高松商業高校茶道部にはお茶室がなく、普段は教室の一角に色紙や花を飾り、簡易畳を敷いてお稽古しています。また部員もほとんどが初心者です。部長の私自身、お客様を招いての本格的なお茶会は初めてでした。最初は全員が緊張していました。最初は全員が緊張していましたが、席を重ねていくうちに、落ち着いて自分の役割を果たし、お茶席を楽しんでいる部員の姿がとても印象的でした。

今回の若人茶会では、広い和室を使用させていただきました。普段のお稽古で

は狭い部室での動作しか経験がなかったので、広々とした和室でお運びができて学ぶことが多かったし、とても嬉しかったです。前日準備の折、普段は見ることもできない露地や茶室を見学できたこととても貴重な体験でした。四季折々の緑が愛でられる庭や露地。和室から見える自然本来の美しさが際立ち、屋内の和室との絶妙なバランスが風格を醸しているように感じました。また、季節を大切にしながら、お茶という伝統文化を楽しむできた日本人の心に少し触れることができた気がしました。

私たちのお茶会は、「梅雨」をテーマに梅雨の晴れ間の爽快感や、雨を受けて青々とした植物の様子やみずみずしさを表現しました。まず、寄り付きには邦坊画「早乙女の絵」で季節感を。お待合には家元後嗣随縁齋宗匠お誕生の折、記念で出された有隣齋宗匠不徹齋宗匠合作「跳躍天地」の兎の絵の飾り扇子でお楽しみいただき、本席には、当代家元不徹齋宗匠による「青山緑水」という軸をか

けさせていただきました。青い山が湖にうつって涼しげな様子を表しています。

本校のお菓子は高松商業高校茶道部オリジナルで、お茶会のたびにテーマを決めて部員がデザインしています。季節や風物詩などにちなんだ茶会のテーマをイメージしながら、部員が図案を持ち寄り選びます。今回のお菓子は初夏に飛び交う淡い蛍の光を連想させる、「蛍のあかり」という銘を付けました。なつめは、雨の日のゆったりとした時間の流れを感じながらくつろいでいたきたいという思いを込め、中島宗峰作の「傘に蝸牛」を使用しました。今回のお茶会では、お盆点前にてお茶を点てさせていただきました。釜鳴りの音を感じていただくと思い、茶杓は有隣齋宗匠作の銘「万つ加勢」を使用しました。また、お客様にお出しするお茶碗もそれぞれに意味を込め、選ばせていただきました。主茶碗は、滝川恵美子作志野、卯の花垣写を使用しました。卯の花が美しく咲く季節でもあり、今年卯年なのでこのお茶碗を選びました。お待合の扇子と同様に、私たちがこのお茶会を通してさらに飛躍できるようにという思いからです。二碗には、桂山作の「赤べこの絵」を使用しました。赤べこには幸運を運ぶという意味もあり、このお茶会でお客様に幸せを感じていただきたいという思いを込めています。

茶席のテーマとお菓子のデザインを募集することから始まり、部員一丸となっ



て準備しました。短い練習期間でしたが自主練習をしたり、SNSを活用して道具の銘や作者、掛け軸の意味するところなどを調べて情報交換するなど、工夫しながら一生懸命取り組みました。当日は天気にも恵まれ、落ち着いた雰囲気の中、お茶会を催すことができました。当日は完全予約制として、一日四回の茶席を設けました。一般のお客様に対しておもてなしをするのは全く初めてということもあり、大変緊張し、ぎこちない亭主のお喋りやお点前でしたが、お客様があたたかく見守ってくださいましたおかげで、私たちの緊張がほぐれ、次第にリラックスしてお茶会という場のやりとりを楽しみむことができました。新型コロナウイルス感染

症拡大の影響で、さまざまな制限があり、お茶会を開くことさえできない高校生活を送ってきた私たちにあって今回のお茶会はとても貴重なものであり、お客様を招いてお茶会を開催できることのありがたみを実感することができました。

ここで、部員たちからのお茶会の感想を紹介します。

● 本格的なお茶室でのお茶会はとても緊張しました。わからないことも多く不安な気持ちもありましたが、一人一人の「お茶席を楽しみたいものになりたい」という思いからみんながひとつになり、心から楽しむことができてよかったですと思いました。

● 高校生として初めてのお茶会でした。私は、お客様に喜んでいただくことを目標に、自分の役割を全うしました。和やかな雰囲気の中、お茶会ができてよかったと思っています。そして、一期一会の素敵な空間でした。

● 初めて亭主としてお客様の前でしゃべることは不安と緊張でいっぱいでしたが、お客様が聞きながら話を聞いてくれたことやいろいろなリアクションをしてくださったことでリラックスして喋ることができました。お点前もスムーズに出てすぐ楽しかったです。

● 茶道部に所属して、初めてお茶会に参加しましたが、楽しむことができました。また、

た、お客様に楽しんでいただけるととても嬉しかったです。至らない点が多々あったと思われませんが、先輩方や先生方の支えもあり、大きな問題もなくお茶会を終えられてよかったですと思います。

● 初めてのお茶会で緊張したけど、いい経験になりました。向き合ってお点前をするのは今まで練習でもしたことなかったのですが、練習すればすぐできましたし、本番でもあまり緊張せず落ち着いてできました。先輩の亭主を見て次自分がするとき頑張ろうと思いました。

● お茶会という交流の場を通して、他校の茶道部の方やお客様との出会いがありよい経験になったと思います。また、中條財団さんのお茶室で振る舞うという貴重な体験ができて良かったです。

● 初めてのお茶会で緊張しましたが、先輩方が指示を出してくださったり、お客様が皆さんとても優しくしたこともあり、リラックスして自分の仕事を行うことができました。あまり大きな役割を担当したわけではなかったですが、みんなの一つのことをやり遂げたという達成感がすごくありました。

● 私は、一席目の亭主で一番お客様が多い席だったので少し緊張しましたが初めてお茶席につくとき、お客様方が温かい笑顔で迎えてくださったので落ち着いて亭主を務めることができました。また、お茶会はみんなで創るもの、楽しいものということが実感できて本当に良い経験になったと思います。



ほとんどの部員が初めてのお茶会で緊張しましたが、とても楽しく刺激になりました。今回のお茶会は、練習時間が短かったため練習不足は否めませんでした。お客様とお茶を通して素敵な時間を共に過ごすことができたと思っています。お茶会に来ていただいたお客様、本当にありがとうございました。とても貴重な体験でした。また、一からお茶会を作り上げるといふことを通して部員同士の絆も深まったように思います。最後に、楽しいお茶会の場を提供してくださった中條文化振興財団さま、ご指導くださった先生方、応援してくれた家族に感謝申し上げます。これからさらにお稽古に励み、より良い「お茶会」という交流の場、癒しの場を提供できるように頑張りたいと思います。

## 茶の湯をさらに楽しむ夏期講習

第1回 8月6日(日)

「利休・有楽・遠州の  
国宝三茶室」講師  
齊藤裕

(建築家・齊藤裕建築研究所代表取締役)

平成11年から13年にかけて、わたしは中條文化振興財団で「あ・うんの数寄講座」の企画・講演・出版をさせていただきました。テーマは、「わび・さび」をどのように理解したらよいのか、ということ、6人の先生方にお話を伺いました。そのときの講演を本にまとめたのですが、とても充実した内容になりました。財団にはまだ若干の在庫があるとのことですので、ご興味のある方はお読みいただければと思います。

さて、本日は茶室のなかでも、国宝に指定されている待庵・如庵・密庵について、これら3つの茶室の素晴らしさがどういふところにあるのか、また、なぜ特別なのか、ということについてお話しします。

今日のポイントは、形かたです。「利休形」という言葉がありますが、形かたというの

は、自分の好みを求めきわめて、その人にしかできない形、スタイルをつくりあげるといふことです。では、どうやって独自の形がつけられていくのでしょうか。そこにはまず、下敷きとなる普遍的な法則があります。それは比例の法則です。比例とは、つまり、もののプロポーションのことです。まず、3つの基本の比例があります。大昔から東洋でも西洋でも使われてきた黄金比の1対1.618、それと、1対ルート2、1対ルート3。これに加えて、1対1の正方形、1対2の長方形。さらに、ルート2対ルート3。計6つの比例の法則に則って、形は整合性を与えられます。茶室であれば、そこにさらに素材の選びや光の採り方、間取りなど、その人独自の感性や考えが重ね合わされて、これまでになかった独自性の高いものがつくられていきます。

今回は写真や図を多用しつつ講座を進めましたので、以下、講演内容のポイントの抜粋を挙げてまとめたいと思います。より詳しく知りたい方は、先述の本をご参照ください。

## ● 序 形を整えることとは

● 葛飾北斎の「大波と富士山」の構図に

ついて、比例をもとに分析。

● 中国元時代の花入の大名物「吉野山」を通して、美しいプロポーションづくりの方法を考察。

● 利休の一切・竹の花入の寸法を分析。利休の茶室待庵と共通する、利休独特のものづくりのセンスとは。

● 遠州の竹の花入「再来」の寸法を分析。利休と遠州における竹の花入の手法の相違について。

● お茶のお稽古のなかにも、8寸、24目、1/4と1/3、といった単純な比例がたくさん組みこまれている。

● 道具や茶室の寸法を整えると、「用」に「美」を重ね加えることができる。

## ① 待庵(妙喜庵)

● 待庵は茶会記に一度も出てこない。にもかかわらず、400年以上にわたって、現存する唯一の利休作と伝えられてきたのはなぜか。なぜ、利休以外の名は出てこないのだろうか。

● 江戸初期には、「利休 妙喜庵 在山 崎宝寺側」(原文ママ)と記された起し絵図が残されている。そこに記入されていることとは。現状の待庵との違いについて。(その最古の起し絵図を会場で披露)

● 待庵と関係するほかの茶室について。秀吉の山里の茶室。少庵の平三畳。

● 待庵に利休の本物の道具をしつらえてみた。そのときに感じたこと、考えたこと。

● たった2畳の待庵。なぜ広く、人を包



みこむような空間に感じられるのか。その一方で、なぜ厳しさを感じさせる空間となっているのか。

● 待庵における空間分割の手法について。

● 落掛けの見事なおさまり、洗練された木づかいのセンス。

● 平天井、掛込天井——天井の形には意味がある。

● 東壁の小窓はいわばスポットライトの効果。新しい手法。

● 床の間について。室床むろどと熱橋ねつはし。

● 如庵(建仁寺正伝院・有楽苑に移築)持ち主。

● 作者である織田有楽は独創的な発想の茶室を鴻池家所有の古書で紹介。如庵の特徴6つ。1、斜めの板とウロコ板。2、アララギを杣そまなぐりにした

床柱。3、床の間の貫シミ(熱橋)。4、中柱とくぐり板。5、曆紙の腰張り。6、有楽窓。

● 如庵の空間の緊張感、ルート2×ルート3のプロポーションが決め手。● 利休には未実現の茶室があった。「今度四畳半に中柱を立てたい」(利休が細川三斎に語ったと伝えられる話)。もしそれができていたとしたら、どんな茶室となっただろうか。やはり四畳半に中柱を立てた如庵の構成を通して考察。

### ③密庵(大徳寺龍光院)

● 遠州作。いつ、なぜここに書院風の意匠でこの茶室をつくったのか。● 遠州は、安定してきた武家社会にふさわしい書院の茶を指す。● 密庵床について。密庵威傑の墨蹟の表装は利休の指図による。● 四畳半台目の間取り構成。わびの茶室にはなかつた気の流れ。光の質。● 床の間と書院棚に見る綺麗さびの手法。

### 参考 現代の茶室例(桐の茶室・札幌)

● 宗旦の四天王の一人であった茶人藤村庸軒の西翁院澱看の席を本歌とする。● 古くから伝わるプロポーションを現代の感覚で再構成。● 素材は桐と紙のみ。● 茶室がもつ劇場性をテーマに。● 茶碗のなかに光をすくいながら茶を飲む趣向。

(齊藤裕)

第2回 8月19日(土)

## 「美しい美濃桃山陶と私」

講師 加藤亮太郎  
(陶芸家 幸兵衛窯八代目)

### ●美濃焼とは

現在の美濃焼の中心である多治見は、650万年前には東海湖という琵琶湖の6・5倍の大きな湖の底にありました。火山から噴き出したマグマが固まって岩になり、やがて土になります。湖に流れ込む川から花崗岩が風化して溶け出した白い土が堆積し、アプライト層ができました。その後、地殻変動で隆起して美濃と瀬戸や信楽、伊賀には、この白い耐火土の層ができました。

日本で焼き物が始まったのは、縄文時代からですが、土器は低温で焼かれますので陶器ではありません。五世紀頃に中国から関西にもっと高温で焼いた須恵器が入ってきて、七世紀頃には、美濃にもこの穴窯の技法が伝わりました。

山に穴を掘って薪で焼くと、千二百度の高温になって薪の灰が土の成分と融合してガラス化します。これは自然釉と言いますが、九世紀頃には人工的に灰釉を作るようになりました。そして、十一世紀頃には古瀬戸に見られるような褐色に仕上がる鉄釉が生まれました。

六古窯の中でも備前や丹波などは、鉄分の多い赤土ですので釉薬が無くても水

が漏れることが無いので焼き締めが発達しましたが、美濃や瀬戸では水が漏れやすいので釉薬が必要でした。

美濃で取れる土は、百草土と呼ばれ、モグサのようなざっくりした土は、乾燥させて、木槌で細かくして、水を入れて粘土になります。白いキャンバスのような茶碗を彩る釉薬が発達したのです。

### ●美濃桃山陶の始まり

桃山時代以前の茶の湯の道具は、唐物が中心でした。利休や織部の時代に楽茶碗をはじめとする国焼きの茶碗が生まれ、侘び寂びの思想や破格への憧れなど、日本独自の美意識が発展しました。瀬戸黒の技法の元は、天目の鉄分の多い釉です。穴窯で色を見るために、途中で引き出すと真っ黒になります。

黄瀬戸は、青磁の技法で灰釉に銅と鉄を混ぜて焼きます。酸素を入れない還元焼成させると青になり、酸化還元させると黄色になります。黄瀬戸の緑や茶色は、華南三彩の技法との合体バージョンです。

志野は日本で初めての白い焼き物です。白磁と染付の技法を合わせます。特に長石釉でぼつたりとした白は、口当た

りも良く茶人に愛されました。下地に描かれた絵付けは、鉄釉です。

一六一〇年ごろに唐津で連房式登り窯が出現し、古田織部によって美濃にもたらされました。登り窯は穴窯に比べて効率よく大量生産ができるようになりました。

織部焼は安南と交趾の技法を併せ持ち酸化銅やコバルトを混ぜた釉薬です。

桃山時代の茶の湯の世界では、常に新しいもの、珍しいものが求められ、歪みのある茶碗、片身替わりなどが特長的な織部茶碗もこうして生まれました。白の世界では、志野織部。黒の世界は、瀬戸黒、織部黒、黒織部など、多くの名品が生み出され、華やかな時代でしたが、織部の切腹以降には職人も離散して、その後二百年間、美濃は不遇の時代になりました。

現在の美濃焼は、あまり知られてはいませんが、衛生陶器のような工業的な陶磁器を含めると日本の生産量の50%以上を担っています。

美濃焼が復活した頃の幸兵衛窯は、美濃焼の父と言われ、荒川豊蔵の師匠でもあった五代目幸兵衛をはじめ歴代の当主が、それぞれ違うテーマで大成されましたが、八代目の亮太郎さんは祖父で人間国宝の加藤卓男(三彩)さんの勧めもあって、改めて美濃桃山陶の研究をされています。年間に十回以上も焼かれて、後世に残るお茶碗をとお目指しています。楽しみですね。

(中條晴之)



# 村川昭和史服装専門博物館

いつの世も女性を輝かせる服装。館内に展示された作品は時代の流行を物語り、変遷をたどって一巡すると、昭和の女性史が浮かび上がります。



日本が第二次世界大戦で焼け野原になった昭和二十年、村川永子は六才、小学校に上がったばかりの少女でした。食べるものはもちろん、着るものにも自由だった昭和二十年代は、学校の裁縫の時間にもつばら着物や古い布、毛糸でリフォームしたり、シャツやシミーズなどを先生、先輩等々に教えてもらい、自分や、友達のために手作りするようにになります。彼女が中学生の頃にはすでに色々な服が縫えるようになり、縫い上げる楽しさに目覚めていきます。丁度その頃日本では洋裁学校が空前のブームとなり、高松でも戦後いち早く開講した白ゆり服装学院へ入学することになります。当時を知る同級生は「永子ちゃんはずごくよくできて、さまざまな年齢の人がいる中でも、若いけれど何でもできてぬきんで一番だった」と回想しています。

折しもフランスでクリスチャン・ディオールの新ニールックから始まったオートクチュール（高級注文服）の時代。おしゃれな服に飢えていた日本（のみならず世界中）では本格的に着物スタイルからハイカラで活動的な洋服へと変わっていったのです。サラリーマンの給料が一〜二万円、洋服の一着の縫い賃と同じと

いう驚きの時代です。

白ゆり服装学院を卒業してそのまま教師として残り、以来、学院と歩み、苦楽を共にし、平成二四年の学院の閉校まで約六十年、誰もが認めるゴットハンドを持つマイスター先生として勤めました。その間、昼間部、夜間部そして自由科の学生を相手に通常の教壇の上からの授業はもちろん、実習の師範、そして学院での勤務の後、夜寝る間を惜しんで、高級洋装品のオーダーを裁縫仕上げするという何十年にも及ぶ克己奮闘が大きな人間性を育み、後輩たちの指針となってきました。それらは瑞宝単光章叙勲、文部科学大臣や厚生労働大臣賞、高松市制功賞、香川県知事賞などを受賞され、全国服飾教育功労賞などの民間団体からの数々の表彰に結集されています。

白ゆり服装学院を辞されたその後は、庵治の自宅の一角に教室を立ち上げ、週二回、教室を開催しており、遠路からも大勢の学生を受け入れています。洋裁の生き字引として、小学生から大学生、社会人、そして小・中・高校の先生方からも教えを乞われ、今尚県内を忙しく指導に回っておられます。間もなく洋裁をはじめて七十年、私事での数々の試練も乗り越えて、まさに心・技・体ともに稀有な存在となりました。

今回、博物館に展示された作品は全てデザインから制作まで村川の商品です。  
(村川昭和史服装専門博物館)

副館長 太田孝司



## 村川昭和史服装専門博物館

〒761-1705

高松市香川町川東下1305空港通り OTAビル3F

電話 | 087-879-6600 (予約先)

開館時間 | 午前10時～午後5時

〈完全予約制〉※当面は平日のみのご案内



## 美味しさ色々、売り方も様々

子供の頃、少し広くなった道端に自動販売機が何台も並んだ場所がありました。飲み物だけでなく焼きおにぎりや焼きそばなどがありました。最近ではタバコと飲み物がほとんどでした。しかし最近では未成年でも買ってしまうタバコやお酒の自動販売機が減り、見かけない派手目な自販機が目につくようになりました。

コロナ禍の影響で外食や店舗での買い物が減ってきたのも原因なのか冷凍食品やスイーツの自動販売機を多く見かけるようになりました。実在の店舗駐車場にあつたり、全く違う場所にあつたりと設置場所は様々ですが、対面販売でない為買いやすいようですね。

学生さんだけではなく年配の方や、男性が買っているのを見かけることもあります。なかでも、クレープの自販機を多く見かけます。それらは営業時間や定休日があるのが面白いですね。衛生管理が行き届いているということでしょうか。

ハネフイーユで有名なパティスリー-ARAKIさんや、たつぷり餡子のどら焼きで有名な森上やさんではお店の駐車場に設置されています。Blue Rainbowの自販機にはたまごサンドや酵素玄米おに

ぎりなど軽食もあります。まんまるどーなつさんでは自販機での販売中には「のぼり旗」が設置されるようです。

食べたい時間に手軽に買える自動販売機のスイーツや軽食。一度立ち寄ってみてはいかがでしょうか。



## お茶の風景(2)

## 香川県立図書館

図書館が「林の飛行場」と親しまれた旧高松空港跡地に新築移転したのは、平成六年のこと。落成時の周辺はいちめん田んぼだったそうですが、以来、産学官の施設が次々と建ち並んだインテリジェントパークの中核施設・情報拠点として広く県民に利用されてきました。

久しぶりに訪ねたのは梅雨も明け、夏まつさかりの頃。駐車場から続く榆並木のプロムナードは、滴たる深緑が眩しい夏の陽を遮って作る木陰のトンネル。時折の微かな風がこぼす木漏れ日や降るような蝉しぐれが混じります。

お茶関係の本を何冊も机に広げて茶の湯の精神に触れ、有名道具が語る故事来歴に見入り、季節ごとの茶花のページを繰ったり、まるで本屋の立ち読み感覚でしたが、帰り際に見た「茶会への招待」は、茶会における主客の作法を写真にして分かりやすく解説した本で、見終わった頃にはすっかり茶会の連客気分。言うなれば、架空の余韻の帰途になりました。



令和5年度

## 第31回財団賞決定

今年度の財団賞は、次の2件に決定いたしました。

- 庵治町才田獅子舞保存会 (高松市教育委員会教育長推薦)
- 川東尺経獅子保存会 (東かがわ市教育委員会教育長推薦)

## 財団行事予定 (9月~11月) 休館日水曜日

お申込みは財団まで。急遽中止になる事もあります。

### 9月

- ◆ 書道教室 森本義人先生  
毎月第1・第3金曜日  
9月1日・15日(金)午前10時~12時
- ◆ ヤングヤング 山下純子先生  
9月2日・16日(土)午後1時~
- ◆ 懐石講座 三友居 山本勝先生  
9月5日(火)午前11時・午後3時
- ◆ 和菓子講座 毎月第2金曜日  
高橋初乃先生  
9月8日(金)午前10時~12時
- ◆ 月に一度の喫茶室 毎月第3火曜日  
9月19日(火)午前10時~午後2時(受付)  
自由なお時間にどうぞ。(ランチは要予約)

### 10月

- ◆ 財団賞授賞式・助成金交付団体認定書授与式  
10月2日(月)午前10時30分~

- ◆ 書道教室 森本義人先生  
10月6日・20日(金)午前10時~12時
- ◆ 和菓子講座 高橋初乃先生  
10月13日(金)午前10時~12時
- ◆ ヤングヤング(子供茶の湯教室)  
毎月第2・第4土曜日 山下純子先生  
10月14日・28日(土)午後1時~
- ◆ 月に一度の喫茶室  
10月17日(火)午前10時~午後2時(受付)  
自由なお時間にどうぞ。(ランチは要予約)
- ◆ 10月月釜 五人様茶会  
秋さぶころ 心に深く沁み入る  
穏やかなひとときを茶室で一緒に  
日時 10月29日(日)  
処 美藻庵 晴松亭(当財団茶室)  
席主 裏千家 松本宗弘  
会費 6,000円(濃茶・薄茶・点心席)  
入席時間(各席6名・2時間15分を予定)  
第1席 9時 第2席 10時30分  
第3席 11時15分 第4席 12時45分  
第5席 14時15分 (各席A席・B席)  
申込 電話受付9月18日(月)10時~

### 11月

- ◆ 書道教室 森本義人先生  
11月3日・17日(金)午前10時~12時
- ◆ 懐石講座 三友居 山本勝先生  
11月7日(火)午前11時・午後3時
- ◆ 和菓子講座 高橋初乃先生  
11月10日(金)午前10時~12時
- ◆ ヤングヤング 山下純子先生  
11月11日・25日(土)午後1時~
- ◆ 11月月釜 五人様茶会  
秋の風情を感じられる趣向のお茶席を是非お楽しみください  
日時 11月12日(日)  
処 美藻庵 晴松亭(当財団茶室)  
濃茶 裏千家 田中宗聖  
薄茶 裏千家 川原宗紀  
会費 6,000円(濃茶・薄茶・点心席)  
入席時間 10月五人様茶会と同様  
申込 電話受付10月9日(月)10時~
- ◆ 月に一度の喫茶室  
11月21日(火)午前10時~午後2時(受付)  
自由なお時間にどうぞ。(ランチは要予約)

# 茶華道ガイド

急遽中止等の変更となる場合があります。

## 表千家同門会香川県支部 TEL (087) 845-4638

〈東讃四季茶会〉 800円 9:00～15:00  
9/10 席主：小谷宗華 中條文化振興財団  
11/12 席主：岩瀬宗由 大西・アオイ記念館

## 小原流高松支部 TEL (087) 845-5651

10/8、9 いけばな小原流 高松支部南西地区花展「花の輪・人の輪-みんなの花展」高松市香南歴史民俗郷土館  
無料 10:00～17:00(9日は16:00まで)

## 琴平月釜茶道会 TEL 090-3460-9195

10/10 金比羅例大祭茶会  
席主：琴平官休会(田中・山下・竹井)  
アクトことひら 200円 10:00～15:00  
11/23 琴平町文化祭茶会 席主：裏千家琴平  
アクトことひら 200円 10:00～15:00  
12/2、3 琴平町歳末チャリティー茶会  
席主：煎茶静風流 金丸光洋 琴平町総合センター1F  
300円 10:00～15:30(3日は15:00まで)

## 茶道裏千家淡交会高松支部 TEL (087) 841-0605

〈高松支部月釜〉前売券のみ・入席時間指定  
大西・アオイ記念館 800円 9:30～15:00  
10/1 席主：今井宗喜  
11/5 席主：高橋宗久  
12/10 席主：植村宗民

## 茶道裏千家淡交会香川支部 TEL 0877-24-3315

9/3 月釜(善琴分会) 席主：稲毛宗敏  
総本山善通寺 600円 10:00～14:00  
10/1 観月茶会(多度津分会) 席主：多度津分会  
多度津町栄町3-3-95 300円 13:00～19:00  
11/3 文化の茶会(坂出) 席主：綾 宗博  
翠松閣 600円 10:00～15:00  
11/3 文化の茶会(丸亀) 席主：金子宗幸  
丸亀市生涯学習センター 600円 9:30～15:00  
11/3 善通寺文化のまつり茶会 席主：善通寺教授者  
鉢伏ふれあい公園 500円 10:00～14:00  
11/12 月釜(観音寺) 席主：観音寺教授者  
働く婦人の家 600円 10:00～14:00

11/23 善通寺文化祭 席主：琴平教授者  
アクト琴平 200円 10:00～14:00

## 煎茶道三癸亭賣茶流高松仙友会 TEL (087) 898-3655

9/17 由佐城月釜茶会同好会(椅子席) 席主：地下恵利子  
高松市歴史民俗郷土館 600円(前売) 9:30～14:30  
11/19 三癸亭賣茶流高松仙友会 煎茶会(椅子席)  
第1席席主：植田記代子社中 第2席席主：植田弘子社中  
玉藻公園披雲閣 1,800円 9:00～15:00

## 茶道石州流琴松会 TEL (087) 888-5311

9/24 第1回秋季茶会(主催：香川県茶道協会)  
禎の間 席主：武者小路千家 香川官休会  
蘇鉄の間 席主：茶道石州流琴松会  
玉藻公園披雲閣 2,000円 9:00～15:00  
10/15 第110回長尾静風会大茶会  
本席席主：茶道石州流琴松会 岸 宗源  
副席席主：裏千家 長尾宗里  
長尾寺 2,000円 9:00～15:00  
11/26 創立67周年記念茶会 席主：茶道石州流琴松会  
大西・アオイ記念館 1,000円 9:00～15:00

## 石州流讃岐清水派石州会 TEL 090-2826-9229

10/22 宗関公351年祭記念茶会 第1席席主：金澤宗和  
第2席席主：木村宗栄、塩田宗知、多田宗久  
玉藻公園披雲閣 1,600円 9:00～15:00

## 武者小路千家香川官休会 TEL (087) 862-8574

11/5 月釜 席主：三好宇太郎  
無量寿院 800円 9:00～15:00  
12/10 香川官休大会 披雲閣 料金未定 9:00～15:00

## 東讃茶道懇話会 TEL (087) 898-0391

10/29 月釜 席主：表千家 萌生会  
池戸西徳寺 800円 9:00～15:30

## 高松市香南歴史民俗郷土館 TEL (087) 879-0717

〈由佐城月釜茶会〉前売券のみ  
第2研修室(和室) 600円 9:30～14:30  
9/17 席主：地下恵利子(煎茶道三癸亭賣茶流)  
10/15 席主：森本宗恵(裏千家 高畑宗稔社中)  
11/19 席主：上市宗聖(表千家 土井宗以社中)

## 料亭二蝶 TEL 0120-86-0220

10/9 季楽茶会(予約制) 席主：山本守嶋(武者小路千家)  
料亭二蝶 め蝶の間 10,000円 9:00～(全5席)

## 編集後記

今年の夏は連日記録的な暑さでしたが、コロナウイルス対応の規制緩和を受け、全国各地の有名な夏祭りの様子などがテレビで放映されました。四年ぶりの通常開催とのことで老若男女の弾けるような笑顔、また、外国人観光客の方々も見よう見まねで踊っている様子も印象的でした。

県下でもこれから秋祭りにむけての準備が始まり、お囃子の練習の音もどこからともなく聞こえてくることでしょう。五穀豊穡と地域住民の平安を願い祈るために受け継がれてきた行司の大切さを感じています。

自然災害、疫病、争いなどを目にして今、心から穏やかな世界であって欲しいと願います。

「声・情報お寄せください」

〒760-0017  
高松市番町二丁目一十二  
公益財団法人 中條文化振興財団編集部  
TEL (087) 826-1335  
FAX (087) 826-1221  
info@chujo-zaidan.or.jp